

第1特集

実践者に学ぶ！

介護の 価値を 再構築する

介護の仕事というと、入浴・食事・排泄の三大介助をイメージするが、それだけが果たして介護の仕事だろうか？ テクノロジー開発や自立支援など、目の前の業務の先にあるものを見据えた介護をやることで、たんなる流れ作業からの脱却につながるのではないか。いつもの介護にプラスして、新たな価値を付加している取り組みを追う。

取材・文 堀切志浩
Photo: ©kazo/istock.com ©taka - stock.adobe.com

仕事へのモチベーションは 何をすれば 高められるか

公益財団法人介護労働安定センターの「令和2年度介護労働実態調査」における「介護労働者の就業実態と就業意識調査 結果報告書」によると、介護に従事している人のうち、現在の仕事に「満足」「やや満足」と回答した人は53.7%と、半数程度いる(図表)。しかし、翻って見てみると、約半数は仕事の内容には満足をしていないとも言える。職場の人間のうち、半数が仕事へのモチベーションがないと考えると、決して良い職場環境とは言えないだろう。

では、どうすれば仕事内容に満足した働き方ができるのか……。単純に考えれば、賃金を上げるといふことは、一つの回答になる。実際、同調査でも現在の職場の賃金に対して「満足」「やや満足」と回答した人は

23.2%と、8割弱が賃金に満足していない結果が出ており、賃金を改善することで、モチベーションが高まることはあるだろう。

とはいえ、介護事業は介護保険制度の制限もあり、利益の追求には限度がある。また、給与を高くするか誰でもいいから来てほしい、というわけにもいかないだろう。

ここで考えたいのが、給与だけが介護の仕事をつづけるうえでのモチベーションになるのか、ということだ。もちろん給与が高いほうが良いだろうが、給与が高い職場で働きたいのであれば、介護以外の仕事を探す、というほうが手っ取り早い。

前述の調査によると、たとえばキャリアアップの機会に満足している人は、23.5%、教育体制に満足

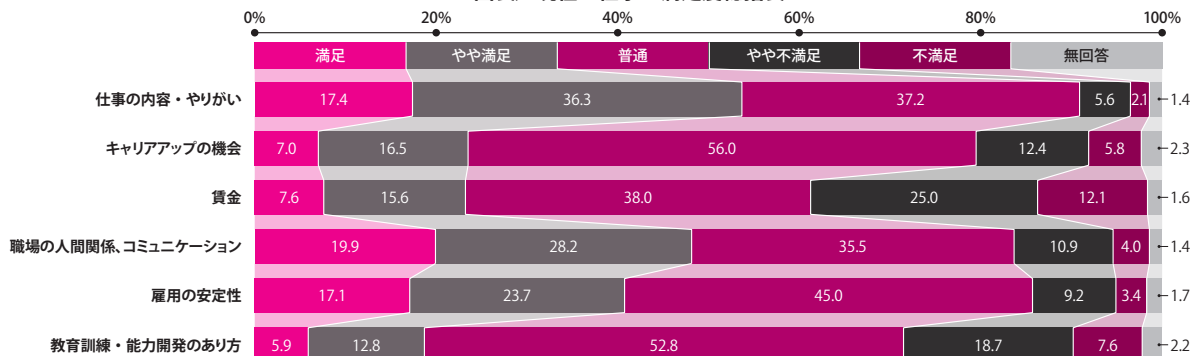
している人は18.7%となっている。8割近くの人が、将来予想図を描いたり、自身のスキルをアップする機会がないと感じているとも言える。ここに対し、何かしらアプローチをすることで、介護の仕事の魅力を感じさせることができるのではないだろうか。



だろうか。

次ページからは、介護の仕事に対して魅力ないしは新たな価値を与え、働き甲斐のある職場づくりに関心している事業者を紹介する。自身の職場に必要な価値は何かを考えるきっかけとしてほしい。

図表／現在の仕事の満足度総括表



公益財団法人介護労働安定センター「令和2年度介護労働実態調査」における「介護労働者の就業実態と就業意識調査 結果報告書」より(一部抜粋)